オーディオ実験室収載

LP-12 導入顛末記(4)
－音の評価－

LINN の LP-12 で聴くアナログは木目の細かい良質のディジタルのような音がします。一方、USB-201 を加えた PC オーディオは簡単に言い切ってしまうと極めてアナログライクな音がします。そこで、LP-12 で聴くアナログの音質評価をマスター音源が同じアナログと CD をリッピングした WAV の PC オーディオを比較することにより LP-12 の音質を浮き彫りにしてみたいと思います。また、古いアナログマスターの LP が鮮度良く聴けるかどうかを確認してみました。

１．試聴条件

【USB-201 の結線】

PC からインフラノイズの USB ケーブル USB-W4 で、ABS-7777 から DGC-B5 により 192KHz で外部クロック入力した USB-201 に入力し、インフラノイズのディジタルケーブル DGC-B5 で DAC-1 に入力します。

【USB-201 の設定】

High Fidelity Position に設定します。

【PC の設定】

PC は SSD 型ネットブック Dynabook N100 を使用し、Vista の排他モードに設定します。また、【サウンド/スピーカー/Property/詳細の設定】を 96KHz にします。

【再生ソフト】

オーディオ仲間の自作再生ソフト Stream Player の最新版 Version2.1.2，および連続再生が可能な Version1.2.4 で試聴します。いずれの再生ソフトも外付け SSD から立ち上げます。

【アナログの構成】

カートリッジ：Ortofon Royal N

アーム：FR FR-64S

ターンテーブル：LINN LP-12

トランス：しなの音蔵

フォノイコ：しなの音蔵プリ

フォノケーブルの引出とトランスとフォノイコの接続には LINN のケーブルを使用しています。

【音源】

アナログは CD とマスター音源が同じもの 3 曲を選びます。一方、CD からはリッピン

グした WAV を r8brain で処理して下記の 192KHz,24bit WAV を準備します。これらは外付け SSD から読み出します。
また、L-12 導入の目的であった溜めこんできた古い LP をもういちどじっくり聴きこんでみたいという動機を検証するための 4 曲を追加しました。

曲名	演奏
ベルリオーズ：幻想交響曲	O.Klemperer：Philharmonia
ロッシーニ：弦楽ソナタ	イ・ムジチ
加藤登紀子 Best14	加藤登紀子
以下はアナログのみ	
バッハ：ゴールドベルク変奏曲	ランドウスカ
ベートーベン：P ソナタ 29 番	ウイルヘルム・ケンプ
ベートーベン：P 三重奏曲大公	カザルス他
バッハ：我らが神は堅き砦	マウエルスベルガー：ゲヴァントハウスオーケストラ

【試聴のポイント】
クラシックについては、和音の溶け合い、倍音の伸び、音の中間色（グラデーション）やピアニッシモの美しさの表現や間接音の再現などにポイントをおいて両者を比較しながら聴いています。加藤登紀子はボーカルのニュアンスをポイントに聴きました。

３．アナログと PC オーディオの比較試聴結果
さらに、USB-201 になるとアナログとの比較試聴の状況は変わってきます。一言で言うとクオリティはほぼ同等で非常に良く似た音がします。違いについて敢えて言えば、アナログはソフトタッチで包み込まれるような優しさあり、USB-201 の PC オーディオは Stream Player の Version2.1.2 と Version1.2.4 のどちらを取っても、透明度が高く、音の立ち上がりが鋭く、見通しが広大な感じです。オーディオ的な見地では USB-201 の PC オーディオがメリット大と感じられます。おそらく、立ち上がりのシャープさ、透明感の点でかなりのマニアは PC オーディオを採るでしょう。一方、アナログはソフトタッチで演奏会場の雰囲気はこちらが近いかなと感じさせるところがあります。と言うのは、実際の演奏会場では、間接音が多く、定位もそんなに良くないし、音の分離もさほどシャープではないものの、音楽に包みこまれるような安らぎがあるからです。
さらに、バッハ：ゴールドベルク変奏曲、ベートーベン：P ソナタ 29 番、ベートーベン：P 三重奏曲大公、バッハ：我らが神は堅き砦など、古いアナログ盤がいずれも記憶にないほど新鮮な印象で聴くことが出来ました。

４．まとめ

アナログ、PC オーディオともグレードが上がってきて、双方とも安心して音楽に浸れるところまで来たように感じます。アナログはファジーな良さがあり、一方、USB-201 を加えた PC オーディオは音楽に良い意味での緊張感を与えてくれます。古いアナログ盤も新鮮な感じで昔のアナログマスターやカッティングの良さを聴かせてくれますので、LP-12 導入の当初の目的は達せられたと思っています。

なお、PC オーディオは再生ソフトの違いによって音が変わり、アナログではカートリッジ、トランス、フォノイコなどにより音の変わりようが激しいので、上記の印象は一つの切り口にしかすぎません。アナログシステムに関しては、上記の組み合わせ以外にもカートリッジは SPU Synergy，Ortofon Contrapunkt a，Ortofon MC20，EMT XSD-15，Ortofon SPU GE，DENON DL-103，FR-１MkⅢ，FR-7 などが、トランスは Northern Electric，Partridge TH-7834，DENON AU-320 などが、Head Amplifier は Mark Levinson JC-1 が，フォノイコは McKintosh C29，Leak Point 1 などが控えとしてありますので、さらにカートリッジ、トランス、フォノイコなど条件を替えて聴きこんでいく予定です。

【追記】

以上のような検証が一段落しましたので、4 人のオーディオ仲間にお越しいただき、アナログと PC オーディオを聴いていただきました。その結果、PC オーディオに軍杯を挙げる方、アナログには PC オーディオで越えられない壁があると主張され方、アナログにはアナログの良さが、PC オーディオには PC オーディオの良さがあると分析される方など意見が分かれましたが、LP-12 導入に関しては一様に成果を認めていただけました。

以上